平成30年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　八幡　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，算数，理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語A・B，算数A・B，理科）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的によくできており、基礎的な力がついている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・漢字の書き取りが5問中4問で全国の平均正答率を上回っている。これは朝学習の時間や学1タイムなどを活用した日頃からの積み重ねが実を結んでいると考えられる。また、慣用句の意味を理解し使う問題の正答率も全国平均よりかなり高い。	
	努力が必要な問題	・相手や場面に応じた敬語の使い方が全校の平均正答率を4%下回っている。また、登場人物の心情について情景描写を基に捉える問題が3%下回り、無回答児童もいた。	

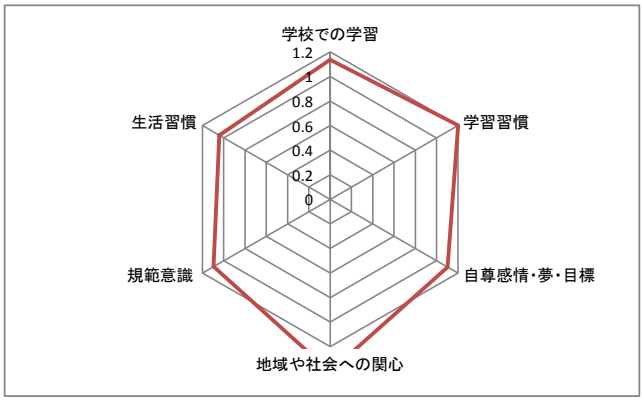
国語B	全体的な傾向や特徴など	全体的によくできており、9問中6問で全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・話合いの様子に関わる問題については、全国平均をかなり上回っている。これは、学習中に話合い活動を積極的に取り入れ、互いの意見を聞きあう環境が教室内にできているからだと考えられる。	
	努力が必要な問題	・自分の考えや意見を文章でまとめることに本校の課題がある。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っているが、計算はできている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・数量関係においては、全国平均を若干上回っている。	
	努力が必要な問題	・小数のかけ算・わり算の意味理解や活用について課題が残る。特に円に関する問題では、円周率の求め方や直径と円周の長さの関係で誤解答が多く見られた。小数を整数に置き換えたり、実際に数字を入れて確かめたりせず、文章だけで考えていくために誤解答が多くなっていると考えられる。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	全体的に下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・角度の計算については、全体的に正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・示された情報を表に整理し考えることや、グラフの読み取りや関連付けの正答率が特に下回っている。複数の条件が重なったときに、その条件を読み取ることができない児童が多くいると考えられる。	

理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均より5%以上下回った設問が16問中7問あった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・全体的に下回っていた中で、正しく実験する方法についての設問は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・動物や植物のつくりを主とした「生命」の分野については正答率が下回る設問が多くあった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・自尊感情が高く、自己肯定感も高い。また、地域行事にも積極的に参加している。 ・授業時間以外で1日当たり1時間以上勉強をしている児童の割合がかなり高い。一方で、家庭で予習・復習をしている児童の割合は80%に満たない。 ・「放課後や週末に何をして過ごすことが多いか」の設問に対し、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答した児童の割合がかなり高い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・朝の時間の「明日への伝言板」や「暗唱詩集やはた」を活用した全校暗唱は継続して取り組んでいきます。
・ユニバーサルデザインを意識し、一人一人の児童に確かな学力をつける授業づくりに努めていきます。
・話合い活動の充実を図り、小集団や全体で話し合うことで考えを深めたり広げたりできるようにします。その際に、分かりやすく説明する方法について考えられるようにしていきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「家庭学習を1時間以上している」と回答した児童の割合が全国平均に比べ、高いです。しかし、「予習・復習をしている」児童は70%程度で、宿題に時間がかかっている児童が多くいます。また放課後や週末にDVDやテレビを見ている児童や、ゲームをしている、ユーチューブを見るなどインターネットをしているといった児童の割合が高いです。このことから、家庭でも時間の使い方を見直し、計画的に学習を進める力を身につけ、将来の夢や目標の達成に向かって努力し続ける子どもの姿を目指していきます。
・中学校の定期考査に合わせて「家庭学習チャレンジ週間」を設定したり、自学ノートのモデルをオープンスペースで紹介したりする取り組みを充実させ、家庭と連携しながら家庭学習のさらなる向上を目指していきます。